

- 問1 19世紀半ば、イギリスから清（中国）へ大量のアヘンが密輸出されていたことを発端として、清がアヘンの取り締まりを強化したことで発生した戦争は何か、次の中から選びなさい。（2026年 栃木県公立入試 類似）
1. 太平天国の乱 2. 日清戦争 3. アヘン戦争 4. 義和団事件
-
- 問2 19世紀半ばの清において、イギリスが軍事攻撃を仕掛ける背景となった「三角貿易」の仕組みを正しく説明したものはどれか。（2021年 岡山県公立入試 類似）
1. イギリスからインドへ綿製品を送り、インドから清へアヘンを送り、清からイギリスへ茶を売った代金の銀が流れる仕組み。
2. 清からイギリスへ生糸を送り、イギリスからインドへ武器を送り、インドから清へ香辛料を送る仕組み。
3. インドからイギリスへ小麦を送り、イギリスから清へ工業製品を送り、清からインドへ労働力を送る仕組み。
4. イギリスから清へ綿織物を送り、清からインドへ銀を送り、インドからイギリスへ茶を送る仕組み。
-
- 問3 1865年の日本の貿易に関する統計において、輸出額の約84.2%を占め、次いで輸出額の多かった「茶」を大きく引き離していた当時の主要な輸出品は何ですか。（2014年 沖縄県公立入試 類似）
1. 生糸 2. 綿花 3. 金 4. 米
-
- 問4 幕末の動乱期において、それまで対立していた薩摩藩と長州藩が、土佐藩の坂本龍馬らの仲介によって、江戸幕府を倒すために結んだ軍事同盟を何といいますか。（2023年 新潟県公立入試 類似）
1. 尊王攘夷 2. 薩長同盟 3. 公武合体 4. 日米修好通商条約
-
- 問5 幕末の動乱期に起こった次の4つの出来事について、最も古いものから年代順に正しく並んでいるものはどれですか。（2017年 鹿児島県公立入試 類似）
1. 桜田門外の変、安政の大獄、大政奉還、薩英戦争 2. 安政の大獄、大政奉還、桜田門外の変、薩英戦争 3. 安政の大獄、桜田門外の変、薩英戦争、大政奉還 4. 大政奉還、薩英戦争、桜田門外の変、安政の大獄
-
- 問6 1854年、アメリカのペリーが再び来航した際に江戸幕府と締結され、下田と函館の2港を開くことを定めた条約の名称として正しいものを選びなさい。（2021年 鹿児島県公立入試 類似）
1. 日米和親条約 2. 日米修好通商条約 3. 日清修好条規 4. 日露和親条約
-
- 問7 19世紀半ば、江戸幕府はそれまでの強硬な対外政策を改め、日本に接近する外国船に対して「燃料や水を与えて穏やかに退去を求めろ」という方針を打ち出しました。この方針転換の直接的な背景となった、隣国の清がイギリスに敗北した出来事を何といいますか。（2019年 神奈川県公立入試 類似）
1. 辛亥革命 2. 日清戦争 3. アヘン戦争 4. 義和団事件
-
- 問8 アヘン戦争の結果を知った江戸幕府が、従来の対外政策を転換させた背景として最も適切な説明はどれですか。（2026年 広島県公立入試 類似）
1. オーストリアの仲介によって、イギリスと清の間に講和条約が結ばれたことを平和外交の好機と捉えたため
2. 東アジアの強国であった清がイギリスの軍事力に敗れたことを知り、武力衝突を避ける必要性を感じたため
3. オランダが清を軍事的に支配したことで、長崎を通じた貿易の維持が困難になると予測したため
4. イギリスが清に対して三国干渉を行い、日本の安全保障に直接的な脅威が及ぶことを警戒したため
-
- 問9 幕末期の長州藩において、松下村塾で学んだ伊藤博文などの志士たちが当初参加していた、「天皇を尊び、外国の勢力を排除しようとする」政治思想を何といいますか。（2020年 和歌山県公立入試 類似）
1. 尊王攘夷 2. 和魂洋才 3. 文明開化 4. 公武合体
-
- 問10 1860年代のアメリカで、リンカーン大統領が「人民の、人民による、人民のための政治」という演説を行った当時の、世界の歴史的な状況についての説明として正しいものはどれですか。（2017年 和歌山県公立入試 類似）
1. コロンブスがスペイン女王の支援を受けて大西洋を横断し、カリブ海の島々に到達していた。
2. アメリカ国内で、工業化を進める北部と奴隷制を維持する南部の対立から南北戦争が続いていた。
3. 清において孫文らが中心となり、皇帝政治を倒してアジア初の共和制を目指す辛亥革命が起きていた。
4. フランスで市民が絶対王政を打倒し、人権宣言を採択したフランス革命が最高潮に達していた。
-
- 問11 1825年に出された異国船打払令から、1854年の日米和親条約締結に至るまでの期間に、清（中国）で発生した出来事について説明したものと正しいものはどれか。（2023年 徳島県公立入試 類似）
1. 清の内部で洪秀全が「太平天国」を建国し、大規模な反乱が起きた。
2. 朝鮮半島の支配権をめぐる日本と清の間で戦争が起き、日本が勝利した。
3. 清の排外主義的な団体が北京の公使館を包囲し、連合軍に鎮圧された。
4. アヘンの密輸問題をめぐってイギリスと清の間で戦争が起き、清が敗れた。
-
- 問12 幕末の長州藩は、当初は外国勢力を武力で排除しようとする強い姿勢を示していましたが、下関でイギリス・フランス・アメリカ・オランダの四国連合艦隊と交戦し敗北を喫しました。この経験を経て、長州藩がとった行動として最も適切な説明はどれですか。（2024年 富山県公立入試 類似）
1. 武力による攘夷の不可能性を認識し、国を開いて外国の優れた技術や制度を取り入れようとする開国へと方針を転換した。
2. 天皇の権威を利用して外国を排除するため、京都で尊王攘夷運動をさらに激化させた。
3. 外国の軍事力に対抗するため、幕府との協力関係をさらに強めて攘夷を徹底する体制を整えた。
4. 西洋の文化を急速に取り入れるため、藩の制度を廃止して政府が直接統治する廃藩置県をいち早く提案した。
-
- 問13 1863年の統計資料によれば、当時の日本の輸出総額のうち、約75%以上をある一つの品目が占めていました。その品目の名称と、当時の状況に関する記述の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2017年 大分県公立入試 類似）
1. 品目は「金」であり、日本と海外の交換比率の違いを利用して大量に輸出され、通貨の混乱を招いた
2. 品目は「米」であり、凶作の影響も重なって国内で深刻な飢饉が発生する直接の原因となった
3. 品目は「茶」であり、急速な増産によって山地の開発が進み、農村に大きな富をもたらした
4. 品目は「生糸」であり、輸出のために国内供給が不足したことが物価上昇の一因となった

答え合わせ・解説

問1	答え 3 アヘン戦争	イギリスは自国の貿易赤字を解消するために、植民地のインドで生産させたアヘンを清へ密輸していました。清が国民の健康被害や銀の流出を防ぐためにこのアヘンを厳しく没収・処分したことで、イギリスが軍艦を派遣し、武力衝突に発展しました。
問2	答え 1 イギリスからインドへ綿製品を送り、インドから清へアヘンを送り、清からイギリスへ茶を売った代金の銀が流れる仕組み。	イギリスは自国の貿易赤字を解消するため、植民地であるインドを利用しました。イギリス製の綿製品をインドへ、インド産のアヘンを清へ、そして清の茶をイギリスへ運ぶという構造を構築することで、最終的に清からイギリスへ銀が還流する仕組みを作り上げました。このアヘン貿易の強制が戦争の直接的な背景となりました。
問3	答え 1 生糸	開国後の日本において、最大の輸出品となったのは生糸でした。1865年の統計では輸出額の8割以上を占める圧倒的な主力産品であり、日本経済を支える重要な外貨獲得源となりました。これに次ぐ品目としては茶が挙げられます。
問4	答え 2 薩長同盟	薩摩藩と長州藩は当初、政治方針の違いから敵対関係にありましたが、ともに外国との紛争を経験して攘夷の限界を知り、倒幕という共通の目的を持つようになりました。この同盟の成立により、倒幕運動は一気に加速し、江戸幕府の崩壊へと向かう決定的な要因となりました。
問5	答え 3 安政の大獄、桜田門外の変、薩英戦争、大政奉還	1858年から始まった安政の大獄が起点となり、その弾圧に対する報復として1860年に桜田門外の変が起きました。さらに1863年の薩英戦争によって薩摩藩が倒幕へと傾く大きな転換点を迎え、最終的に1867年、15代将軍徳川慶喜が政権を朝廷に返す大政奉還が行われました。歴史の因果関係をたどると、幕府による強権政治、その破綻、地方雄藩の台頭、そして幕府の終焉という流れになっています。
問6	答え 1 日米和親条約	ペリーによる軍事的な圧力を背景に、200年以上続いた「鎖国」政策を終結させるために結ばれました。この条約では貿易の許可までは含まれておらず、あくまで遭難船の救助や、アメリカ船に対して薪水（燃料）や食料を補給することを目的としていました。1858年に結ばれた、貿易の開始を目的とする日米修好通商条約との混同に注意が必要です。
問7	答え 3 アヘン戦争	1840年に始まったアヘン戦争で、大国であった清がイギリスに敗北したというニュースは、オランダ風説書などを通じて江戸幕府に大きな衝撃を与えました。幕府は、このまま異国船打払令による武力排除を続ければ、日本も清と同様にイギリスなどの強大な軍事力を持つ国々と戦争になり、敗北する恐れがあると判断しました。この危機感から、1842年に政策を転換することとなりました。
問8	答え 2 東アジアの強国であった清がイギリスの軍事に敗れたことを知り、武力衝突を避ける必要性を感じたため	江戸幕府はオランダから提出された海外情報に関する報告（別段風説書）によって、清がイギリスに敗北した事実を詳細に把握していました。それまで幕府は「異国船打払令」によって外国船を力づくで追い払う方針を採っていましたが、清の敗北を教訓に、同じようにイギリスなどの強国と戦争になれば日本も敗れる可能性があるかと危機感を抱きました。このため、人道的な観点から薪水（燃料や水）を給与する方針へと転換し、外交的な衝突を先送りにしようとした。
問9	答え 1 尊王攘夷	ペリー来航以降、幕府が天皇の許しを得ずに条約を締結したことへの反発から、天皇を敬う「尊王」と、外国勢力を撃退する「攘夷」が結びついた思想が広まりました。伊藤博文などの長州藩の志士たちは、当初はこの思想に基づき、イギリス公使館を焼き討ちにするなどの激しい行動に出ましたが、後に海外の進んだ実情を知ること、開国と近代化による国づくりへと方針を転換しました。
問10	答え 2 アメリカ国内で、工業化を進める北部と奴隷制を維持する南部の対立から南北戦争が続いていた。	リンカーンの演説は、1861年から1865年にかけて行われたアメリカ南北戦争の途上で行われました。フランス革命は18世紀末（1789年～）、コロンブスの航海は15世紀末（1492年）、辛亥革命は20世紀初頭（1911年）の出来事であり、これらは時代や場所が異なります。リンカーンの演説が行われた背景には、バラバラになりかけた合衆国を民主主義の精神によって再び一つにまとめようとする強い意図がありました。
問11	答え 4 アヘンの密輸問題をめぐってイギリスと清の間で戦争が起き、清が敗れた。	1840年に始まったアヘン戦争は、江戸幕府が異国船打払令によって外国船を排斥していた時期から、開国へと舵を切るきっかけとなった日米和親条約の間に位置する重要な出来事である。大国である清がイギリスに敗北したという報せは、当時の日本に大きな衝撃を与え、幕府の対外政策に影響を及ぼした。
問12	答え 1 武力による攘夷の不可能性を認識し、国を開いて外国の優れた技術や制度を取り入れようとする開国へと方針を転換した。	長州藩は1863年に下関海峡を通過する外国船を砲撃しましたが、翌年の四国連合艦隊による報復攻撃で大敗しました。この際、西洋との圧倒的な軍事力の差を痛感したことで、それまでの「攘夷（外国を排除する）」という考えが現実的ではないと悟りました。その結果、武力による排除をあきらめ、むしろ積極的に外国から技術を学び、国力を高める「開国」へと大きく方針を転換し、後の倒幕運動へとつなげていきました。
問13	答え 4 品目は「生糸」であり、輸出のために国内供給が不足したことが物価上昇の一因となった	幕末の貿易において、日本の最大の輸出品は生糸であり、輸出額の4分の3を占めるほどの圧倒的なシェアを持っていました。生糸はもともと国内の高級衣料の原料でしたが、海外（特にヨーロッパ）での需要が非常に高かったため、生産された生糸の多くが優先的に輸出に回されました。その結果、国内での流通量が減少し、価格が急騰するという現象が起きました。これが食料品である米などの価格上昇とも連動し、社会不安を増大させる結果となりました。